

オーエスジールの 事業内容と沿革

株式会社ダイセキ環境ソリューション
山本浩也

1. オーエスジールの会社概要

○商号	オーエスジー株式会社
○本社所在地	豊川市本野ヶ原22番地
○設立	1938年3月26日
○事業内容	切削工具、転造工具等の製造販売
○資本金	122億39百万円（2021.11.30現在）
○売上収益	連結 126,156百万円（2021年11月期）
○従業員数	連結 7,489名/単独 1,914名 （2021.11.30現在）



2. オーエスジーの主要製品



TAPS
タップ

タップは、めねじ(穴の内側のねじ)をつくる工具で、自動車エンジンの精密めねじ加工などに重要な役割を担います。当社創業以来の主力製品です。



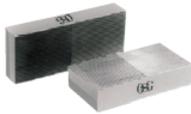
DRILLS
ドリル

ドリルは、穴をあける工具で、少しの誤差も許されない高度な加工技術を要求される自動車部品などに使用されます。高効率な加工や難削材の加工に対応した超硬ドリルの拡販に注力しています。



END MILLS
エンドミル

エンドミルは、金属を削り出して形をつくる工具で、主に家電製品のプラスチック金型、自動車部品のダイカスト金型、プレス金型、航空機部品の加工などに使用されます。



ROLLING DIES
転造工具

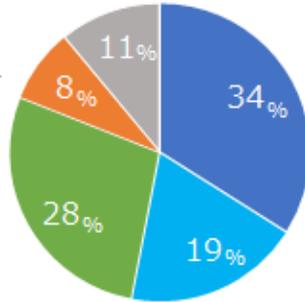
転造工具は、丸棒状の素材にねじ山を転写する工具で、自動車部品加工にも応用されています。カウンターフロー式転造ダイスの拡販に注力しています。

3. オーエスジーの売上構成

製品別
売上構成比

- タップ
- エンドミル
- ドリル
- 転造工具
- その他

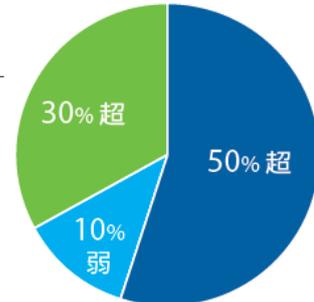
【2021年11月期】



顧客別
売上構成比

- 自動車産業
- 航空宇宙産業
- 一般産業
(精密部品、金型等)

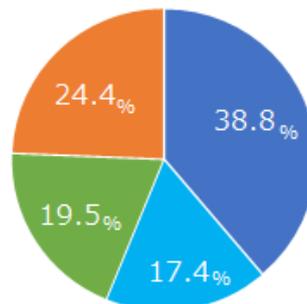
【2021年11月期】
※当社推定



地域別
売上構成比

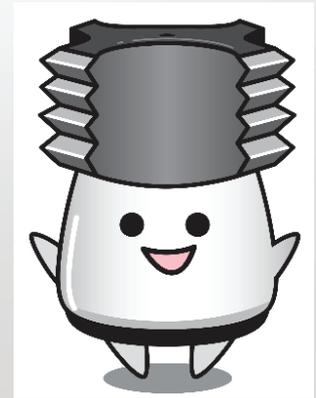
- 日本
- 米州
- 欧州・アフリカ
- アジア

【2021年11月期】



4. オーエスジーの沿革 ～大きな流れ～

- ～40年代 創業・中堅工具メーカーへの道
- 50年代 ねじ用切削工具国内No.1メーカーへ
- 60年代 輸出による海外市場進出
- 70～80年代 世界生産体制確立と
切削工具の総合メーカー化
- 90年代 世界戦略「出稼ぎ地球会社」
- 00年代～ 穴加工用工具で世界No.1へ



5. 創業・中堅工具メーカーへの道

【社会状況】

- ・ 第二次世界大戦（1945終戦）
- ・ 1950朝鮮戦争勃発

【経営意思】

- ・ 国産タップの開発を成し遂げる

- 1938 大沢秀雄氏が東京に(株)大沢螺子研削所設立
タップ・ダイス製造開始⇒軍需で成長
- 1942 ねじゲージの製造開始
- 1943 愛知工場（宝飯郡一宮町）開設
- 1945 終戦：社員700名⇒30名に
- 1950 朝鮮戦争特需でフル生産へ
⇒中堅工具メーカーへ復活



6. ねじ用切削工具 国内No.1メーカーへ

【社会状況】

- ・ 1950～ 朝鮮戦争特需
- ・ 1955～73 高度経済成長

【経営意思】

- ・ 受注生産から量産体制方式へ
- ・ 生産機械も自前で⇒品質・コスト◎

- ・ 1956 転造丸ダイスの製造開始
- ・ 1957 販売政策を「受注生産」から「量産体制」へ
- ・ 1958 機械工業振興法で認定⇒8年設備投資の原資に
- ・ 1960 ねじ用切削工具シェア30%で国内No.1へ
- ・ 1961 豊川工場（1期）⇒自家専用工作機械開発
- ・ 1963 ねじ転造平ダイス研削盤開発（日本初・豊川）



7. 輸出による海外市場への進出

【社会状況】

- ・ 米国が世界一の工具需要国
かつ工具生産国に

【経営意思】

- ・ 「日本のOSG」から「世界のOSGへ」

- ・ 1957 秀雄氏が長期海外視察⇒以降幹部も次々と
- ・ 1962 輝秀氏が英国研修留学へ。スウェーデンに販路
⇒以後66南アフリカ、68スイス、70ベルギー、71西ドイツ
- ・ 1963 販売部門を分離、オーエスジー販売を設立
- ・ 1967 台湾で共同出資販社設立（大宝企業有限公司）
- ・ 1968 米国にOSGタップ & ダイ
（OTD・販社）を設立
- ・ 1969 米国アストメショーで大反響



8. 世界生産体制構築と 切削工具の総合メーカー化

【社会状況】

- ・ 1973 第一次オイルショック⇒合理化
- ・ 1985 プラザ合意⇒円高進展

【経営意思】

- ・ 海外市場開拓には現地生産と切削工具総合メーカー化が不可欠

- ・ 1969 米国の輝秀氏からインドミル参入要請
- ・ 1970 大宝精密工具（台湾）がトップ工場開設
ハイエンドミル製造開始（豊川工場）⇒80超硬エンドミル
- ・ 1971 圧造工具の製造開始（豊橋工場）
- ・ 1973 OTDがソスター社買収
⇒米国に生産拠点確保
- ・ 1977 OFP（ブラジル）が工場開設
- ・ 1984 ドリルの製造開始（新城工場）
- ・ 1985 韓国OSG設立⇒日・米・台・韓・伯の世界生産体制へ



9. 世界戦略「出稼ぎ地球会社」

【社会状況】

- ・ バブル経済崩壊、円高定着
- ・ 新興国経済の台頭

【経営意思】

- ・ 世界5極ネットワークの構築（日・米・欧・中華圏・南アジア）

- ・ 1988 OSGカナダ、90シンガポール、96タイ、97フランス、00デンマーク
- ・ 01中国、02スペイン、01上海、03ドイツ・イタリア
- ・ 1992 オーエスジー販売と合併
⇒経営一元化・情報共有推進
- ・ 1994 メキシコNo.1工具メーカー・Royco買収
- ・ 1995 英国中堅工具メーカー買収⇒欧州初の生産拠点確保
- ・ 2005 OSGインドネシアがOTD買収先のインド生産部門を傘下に
- ・ 2007 インドネシア、08オランダ・ベトナム・フィリピン、12トルコ・ポーランド等



10. 穴加工用工具で世界No.1へ

【社会状況】

- ・ 2008リーマンショック
- ・ 2020コロナパンデミック

【経営意思】

- ・ M&A（業容拡大）・ DX（生産性向上）で世界No.1へ

- 2004 デザインセンター・o6グローバルテクノロジーセンター（一宮町）
⇒ 2施設で「OSGアカデミー」
世界市場で求められる製品開発・課題解決
- 2014 高品質「Aブランド」シリーズ発表
- 2020 NEO新城工場完成
⇒ DX駆使して多品種少量生産
と設備稼働率向上を両立



11. 事業内容と沿革から見る特長

○ 技術・製造と販売のバランス感覚

秀雄氏と輝秀氏の精神が'92製販統合を経て現在まで継承。一方に傾斜することなく健全な成長を継続

○ ドメインの深堀でグローバル・ニッチ・トップに

「精密切削工具」に経営資源を集中投下。多角化に向かわず、競争力を世界レベルで高めることができた。
生産機械内製化で高品質・低コスト。特許も取らず

○ グローバルで最適調達・最適生産・最適販売

切削工具は消耗品。市場段階毎に輸出と海外直販・現地生産のベストミックス設定で取引先を開拓・拡大

○ 地方本社でありながらグローバルかつ最先端

輝秀氏の「地球会社」精神で世界の最先端を常に志向。特にITの先進性は俊逸で、DXをNEO新城工場で体現



12. 参考文献

- 「研削琢磨～オーエスジー物語～」
吉村仁禅著
1997年3月 オーエスジー株式会社発行



- 「Earth Family 出稼ぎ地球会社を目指して
～OSG海外進出の歩み～」
大沢輝秀著
2013年3月 オーエスジー株式会社発行



オーエスジー株式会社 ホームページ